

運動学習において教えることが求められることの影響

－技能ポイントが提示される場合とされない場合－

竹重 龍一 （ 福岡教育大学大学院 ）

1. 目的

本研究の目的は、教えることが求められる運動学習において、技能のポイントの提示が技能習得に及ぼす影響を明らかにすることである。

2. 研究方法

1) 対象者：運動部活動に所属する学生 68 名

2) 調査方法：運動課題として、ダーツ投げを行わせた。プレテストとして、ダーツ投げ 10 本を行った。その結果を基に、ポイント提示+教授期待群、教授期待群、ポイント提示群、コントロール群の 4 群に分けた。次の日から 3 日間を練習期間とし、1 日 50 本の練習を行った。5 日目にはポストテスト 10 本を実施し、ダーツ投げの技能ポイントに関する自由記述テストを行った。さらにその 5 日後に保持テストを 10 本、距離を変えた転移テストを 10 本行った。

3) 分析方法：ダーツ得点の推移に関しては、教授期待の有無、ポイント提示の有無、時期の 3 要因分散分析を行った。自由記述テストにおける記述量に関しては、教授期待の有無（2水準）×ポイント提示の有無（2水準）の 2 要因分散分析を行った。

3. 結果と考察

1) ダーツ得点の推移では、時期の主効果のみが有意であった ($F(1, 54) = 20.44, p < .01$)。多重比較によると、プレテストとポストテスト及び保持テスト間で有意差が見られ、プレテストと比較して、ポストテスト及び保持テストで得点が低く、正確性が向上していた。また、多重比較の結果、転移テストとその他 3 テスト間に有意差が見られ、転移テストは、その他 3 テストより得点が高く、正確性が低下していた。

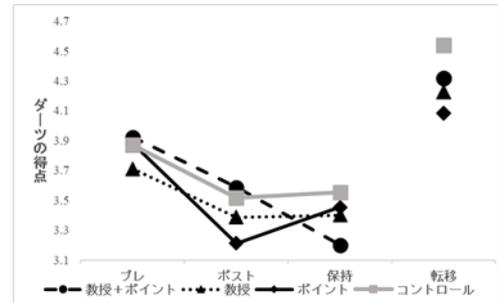


図 1. ダーツ得点の推移

2) ダーツの技能ポイントに関する自由記述量に関しては、教授期待の要因の主効果に有意差が見られ ($MSe=64.06, p < .01$)、教授期待ありの 2 群は教授期待がない 2 群と比較し、ダーツのポイントに関する宣言的知識の獲得が促進された。

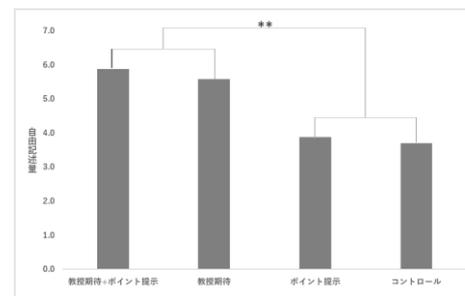


図 2. 自由記述量の比較

4. 結論

本研究では、教えることが求められる学習において、技能ポイントを提示することが技能習得に及ぼす影響は確かめられなかった。しかし、ダーツの技能ポイントに関する宣言的知識の獲得は促進したと考えられる。今後は、測定項目や実験期間を再検討し、技能ポイントの提示が運動技能習得に及ぼす影響について検討していく必要がある。

5. 主な参考文献

1) Daou, M., Lohse, K. R., & Miller, M. W. (2016). Expecting to teach enhances motor learning and information processing during practice. *Human movement science, 49*, 336-345.